

15. 八王子保健センター

(1) 理念・目的

八王子保健センターは、八王子キャンパスにおける学生及び教職員の健康保持増進を目的とする。

(2) 組織

〔現状の説明〕

保健センターは、組織上学長直轄として位置付けられ、独立したセンター組織となっている。

所長1名、校医5名（カウンセリングを行う医師3名）看護職員1名、事務職員1名が配属されている。

〔点検・評価〕

本学における保健センターは昭和61年（1986年）7月に発足した。当初は校医1名と看護職員1名で対応していたが、校医1名では対応しきれない現状があり平成12年より現在の人員配属となっている。

〔長所と問題点〕

現在は合計6名の校医が、当番日を決めて診療に当たっている。医師が常駐することは、学生、教職員の安心感につながっている。また、健康診断、予防接種等も短時間の内にスムーズに行えるようになった。しかし、看護職員、事務職員が1名ずつの配置のため、日常の対応にはそれ程問題はないが、健康診断の時期には保健センターを訪れる人達への対応が重なるため、更に看護職員1名の配置が望まれる。

〔将来の改善・改革に向けた方策〕

上記問題点にもあげたが健康診断等、人手の必要な時には、臨機応変に対応できる方策が望まれる。また、栄養相談、性の悩み相談に訪れる学生が多いので、それらの相談に適切に対応できる人材の配置が望まれる。

(3) 活動内容

〔現状の説明〕

現状の活動内容としては、定期及び臨時健康診断、予防接種、健康相談、軽度の外傷及び疾病に対する応急処置と医療機関への搬送、健康診断書及び証明書の発行、杏林大学付属病院の受診手続き、保健に関する知識の普及、及び啓蒙（栄養レシピ、健康手帳等資料配付、情報掲示、年1回の健康週間のイベント行事）、その他所長の申し出により、学長が必要と認める業務等を行っている（別表1、2）。

〔点検・評価〕

定期的に行う行事に関しては大きな問題もなく無事終了している。また、平成12年より栄養レシピ、健康手帳の配布を行い好評を得ている。

〔長所と問題点〕

栄養レシピや健康手帳の配布を行っているが、大変好評でこの結果、学生達の自己の健康管理に対する意識付けになっている。

問題点としては、健康診断、予防接種などのお知らせをガイダンスで説明し、更に掲示板に掲示しているが、忘れる学生が結構いることである。また、予約の時間に遅れても何の連絡もない学生もいる。

〔将来の改善、改革に向けた方策〕

上記問題点に対する改善策の名案は浮かばないが、現段階に於いては、その都度諦めずに注意をして行くしかないと思われる。

別表1 平成12年度八王子保健センター学部別等利用状況（延数）

(H12.4.1～H13.3.31)

所 属		性 別	利用数	計 (%)
保 健 学 部		男	41	330(37.0)
		女	289	
社 会 科 学 部		男	141	210(23.5)
		女	69	
外 国 語 学 部		男	71	245(27.5)
		女	174	
大 学 院	保 健 学 研 究 科	男	2	6(0.7)
		女	4	
	国 際 協 力 研 究 科	男	1	3(0.3)
		女	2	
別 科		男	6	19(2.1)
		女	13	
教 職 員		男	40	74(8.3)
		女	36	
学 外 者		男	1	5(0.6)
		女	4	
計 (%)				892(100.0)

別表2 八王子保健センター症状別利用状況（延数）

(H12.4.1～H13.3.31)

区分	症 状 等	学生(人)	職員(人)	学外者(人)	計 (人)
内 科 的 症 状	発熱	3	0	0	3
	頭痛	32	7	0	39
	感冒（咽頭痛・鼻汁・鼻閉・咳そう等）	180	33	0	213
	腹痛	36	1	1	38
	生理痛	71	1	0	72
	下痢	15	0	0	15
	便秘	0	0	0	0
	胃部症状（悪心・嘔気・嘔吐・胃痛・胃部不快等）	61	4	1	66
	膀胱炎	1	0	0	1
	皮膚症状（蕁麻疹・湿疹・掻痒等）	19	2	0	21
	不定愁訴（過換気・摂食障害等）	25	1	0	26
	貧血・眩暈・日射病・意識障害等	19	2	0	21
	二日酔い・乗物酔等	2	0	0	2
	喘息	1	0	0	1
	心臓発作・胸内苦悶・痙攣発作等	2	0	0	2
	健康相談（受診相談・血圧チェック等含む）	81	4	0	85
	脳神経症状	1	0	0	1
	その他	8	0	0	8
	外 科 的 症 状	切傷・擦過傷	114	10	0
刺傷・挫創		5	1	0	6
突指・捻挫		34	0	0	34
骨折・脱臼		2	0	0	2
打撲痛・発赤腫脹・化膿		28	1	0	29
肩腰背部・筋関節等の疼痛		23	4	0	27
熱傷（火傷）		12	1	0	13
虫さされ・咬傷		11	0	0	11
歯痛		5	0	0	5
口腔疾患・口内炎		0	0	0	0
眼球症状（充血・異物・麦粒腫等）		6	0	0	6
鼻出血・耳痛等		3	0	0	3
胼胝・魚の目・粉粒・ひょう疽		0	0	0	0
乳房しこり・乳房痛		0	0	0	0
その他		16	2	0	18
小 計	816	74	2	892	
そ の 他	HBsワクチン接種	691	0	0	691
	ツベルクリン反応接種	256	0	0	256
	ツベルクリン判定	256	0	0	256
	BCG接種	12	0	0	12
	RI健診	4	0	0	4
	検尿	2	0	0	2
	健康診断書発行	0	0	0	0
	職員定期健康診断フォロー	0	0	0	0
	小 計	1221	0	0	1221
合 計	2037	74	2	2113	
	ペット利用数	61	2	1	64
	カウンセリング	34	0	0	34
	健康指導（生活・食事指導等）	79	3	0	82

(4) 施設・設備等

〔現状の説明〕

八王子保健センターは、八王子キャンパス内の松田記念館地下1階にある。

受付、診療室、休養室の3室を保有しており、主な設備としては、軽度の外傷及び疾病に対応できる薬品類、医療器具、待合用のソファ、身長体重計、体脂肪計、自動血圧計が設置されている。

〔点検・評価〕

薬品類、医療器具、各測定器は学生達の要望に十分に correspond してくれるものであり、適正設置と思われる。

〔長所と問題点〕

健康手帳を配布したことにより、身長、体重、体脂肪、血圧、体温等を定期的に測定しにくる学生が増えている。健康への自己管理意識の向上につながったと評価される。問題点としては、休養室に2つのベットが設置されているが、男女同時に休養が必要となったときの対応に苦慮している。どうしても必要な場合は診療室のベットを使用している。

〔将来の改善・改革に向けた方策〕

できれば保健センターの場所を八王子キャンパス中央部に確保できることが望ましい。休養室は男女別々の部屋を確保することが望ましい。

(5) 管理・運営

〔現状の説明〕

受付時間は9時～17時15分である。

週一度、所長と看護職員、事務職員がミーティングを行い、月に一度、所長を中心に校医全員と看護職員がミーティングを行っている。

〔点検・評価〕

受付時間については、19時30分まで授業のある学生もいるため、その時間まで対応できることが望ましいが、現在の看護職員、事務職員の配置人数では到底無理である。月に一度行うミーティングは、効果的でスタッフのチームワーク形成に役立っている。

〔長所と問題点〕

月に一度のミーティングは、互いの情報提供、交換の場となり、問題の早期解決に役立っている。問題としては校医当番の医師がその日に授業を担当していることがあり、その間、連絡がとれないことがある。

〔将来の改善・改革に向けた方策〕

校医は当番日には授業を持たず、保健センターを訪れる学生達にいつでも対応できる体制が望ましい。